

新局長に岡田憲和氏

(1月1日付け)

12月31日付けで、臼杵徳一局長が退任し、1月1日付けで新局長に岡田憲和氏が就任しました。

臼杵局長は、独立行政法人農畜産業振興機構理事から平成22年4月に当局長に就任し、在任期間は1年9ヶ月間でした。

1月5日(木)新旧局長の事務引継ぎが行われ、その後、両氏から職員に対し、次のような挨拶がありました。

臼杵前局長は「1年9ヶ月お世話になりましたが、無事3回目の国有林野事業の勤務を終えることができました。」



着任の挨拶をする岡田新局長

去年の3月11日に発生した東日本大震災後の対応につきましては、かつて経験したことのない色々な民政支援活動等に始まり、警戒区域の設定に伴った各種対応や放射性物質の森林除染等が開始されるまでになりました。

皆様方には、非常に厳しい状況の中で、局を挙げて復旧・復興対策に取り組んでいただいたことに改めて感謝いたします。

私も今後は、国有林のサポーターとして、色々努力したいと思っています。中々言い尽くせませんが、皆さんには大変お世話になりました。」

岡田新局長からは、「先程、前局長から当局的業務について引継ぎをさせていただきましたが、やはり原発事故に関連した除染の問題が最大の課題の一つであると考えています。地元のためにも国有林はあるわけです。一杯でできるだけのことをして参りたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

私は、国有林行政を担当した経験はありませんが、一般林政については数回にわたり林野本庁で勤務した経験があります。森林自体は何も語ってこないわけですので、森林の持つその役割を皆さんの立場から立派なものに仕立て、それを国民の皆様にお伝えしていけば、国有林の役割についても十分ご理解していただ

るのではないかと常々考えておりました。それはやはり、日々の努力として我々国有林ではどのようなことができるのか常に意識し、考えて対応していかなければならないと思っております。

前勤地は、農林水産省大臣官房の検査部で、各種団体等の検査業務に携わっておりましたが、検査の視点は、当たり前のことができていますか、できていないのかを見るということでした。

団体組織のそれぞれの権限や責任のある方は、自分の役割と責任を十分に理解し、行動することが必要であり、漫然とやってしまうと、いつの間にか大きなミスにつながっているということがあります。日々の業務の中で常に振り返るということは



事務引継 左:岡田新局長 右:臼杵前局長

大変重要なことと思っております。一つの小さな事柄でも、国民の皆様から大変大きな批判をいただくこととなりますので、十分気を引き締めて国有林行政に携わっていただきたいと思います。

関東森林管理局長

岡田 憲和

出身 (略) 兵庫県

昭和57・4 農林水産省入省(林野庁)
平成3・9 林野庁林政部木材流通課課長補佐(総務班担当)

平成5・4 石川県農林水産部農政課課長
平成8・5 大臣官房文書課課長補佐(法令)

平成9・4 大臣官房文書課課長補佐(総括)
平成10・4 経済局国際部技術協力課海外技術協力官

平成10・7 中央省庁等改革推進本部事務局企画官

平成12・6 食品流通局企業振興課外食産業室長

平成13・7 林野庁林政部参事官

平成15・1 林野庁林政部経営課長

平成16・4 林野庁林政部企画課長

平成19・1 林野庁林政部林政課長

平成20・4 大臣官房地方課長
平成22・4 大臣官房協同組合検査部部長
平成23・9 大臣官房検査部部長
平成24・1 関東森林管理局長